

【B部門】

ゆいまーるの心で
やりたいことを実現する

助成団体

だいじょうぶネット沖縄

(若年性認知症本人、家族交流会)



be Orange



活動の様子

| 活動内容

- ・私達は認知症まちづくり基金を活用し「作業活動が行える場所の確保」としてビニールハウスを設置しました。H28年9月17日に着工し、22日に完成した。

- ・天候に左右されない継続可能な場所が確保できたことで活動は安定し、月2回開催を継続できている。収穫した農作物は近くの市場へ出荷し、昨年は「RUN伴沖縄」の開催で講演会などに出向いての野菜や作品の販売活動、地域のお祭りに出店し販売活動を行った。

その結果、売上金からRUN伴沖縄の当事者の参加費、ご家族分のTシャツ代金と、Dシリーズ参加選手の旅費一部、前夜祭参加費を捻出した。

｜活動実施による効果

(地域への影響や認知症当事者の方の変化など)

- 1) ハウスが設置されたことで活動が安定し、居場所が確保できた。
- 2) 居場所ができたことで、自主的に参加するようになった。
- 3) 当事者、ご家族がやりたかったことを思い出し、目標を見つけることが出来た。

<当事者の変化>

集団活動に参加していく中で仲間のことを知り、自身の病を客観的に受け止めることが出来た当事者がいた。

<活動の今後>

「就労型活動」を主として「共通の目標」を定め、当事者の今できること（能力）、やりたいこと（思い）ともに考え継続実行する。

｜活動実施による効果

(地域への影響や認知症当事者の方の変化など)

<当事者の変化>エピソード

「私は他の当事者とは違う」と割り切り活動に参加されていた。作業能力も高いため、本人が出来ることをマイペースにこなすことが多かった。しかし帰りの送迎車では「職場でまたミスをした、怒鳴ってしまって申し訳なかった」「妻にも八つ当たりして申し訳ない」等サポーターに不安を語り始めていた。活動を重ねていく中で「私も進行してきている、私は進行したら、あの人のように穏やかに笑顔でいられる自信がない」とも語っていた。その後様々な場面で、他のメンバーへ気遣いの言葉をかけたり、段差では手を添えたり、サポートの必要なメンバーと一緒に作業を行うようになった。

| 助成金の使用実績

助成額：500,000円

ビニールハウス設置・・・・・・・・・・581,754円

(材料費、工事費込み)

合計・・・・・・・・・・・・・・・・581,754円